

22

南田さんの学級では、北原白秋はくしゅうが雀すずめを題材にして書いた【詩1】【詩2】を比べて読み、考えたことについてグループに分かれて話し合うことにしました。この二つの詩と「グループでの話し合いの様子」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【詩1】

雀よ

おお、雀よ、

目がさめたね、

雨があがったね、

むくげ注1が白う咲さき出したね、

涼すずしい空だね、

朝涼あさすずだね、

おお、雀よ、

飛んでいい、飛んでいい。

北原 白秋



注1 むくげ：夏に咲く花

【詩2】

雀

いや高く注1、

さむざむと、まだ、

揺ゆれのこる注2孟宗もうそうの秀ほの、

あわれ、その秀注3に、

留とまりもあえぬ雀の、

一羽雀の、

揺ゆられては、ちち、

吹ふかれては、ちち、

いずれは散りゆく日あしの

今は冬——すぐに雨なり。

北原 白秋



注1 いや高く：ますます高く  
注2 孟宗の秀：竹の幹以外の部分、枝  
注3 留まりもあえぬ：留まろうとしてじっと留まっていられない

【グループでの話し合いの様子】

南田 まず、【詩1】を読んで、考えたことを話し合いました。

小川 【詩1】は、わたしたちがいつも話しているような言葉で書いています。それに、「よ」や「ね」という **ア** がたくさん使われています。だから、読んでいて親しみやすさを感じます。

横山 付け加えます。【詩1】は、「雨があがった」「むくげが白う咲き出した」「涼しい空だ」「朝涼だ」と朝の様子が **イ** でたたみかけるように書かれています。雨だった昨晚とはちがう、さわやかな朝の景色にうきうきしている気持ちが伝わってきます。

野上 **A**、北原白秋さんは、そのような朝の喜びを、近くで飛び回っている雀たちと分かち合ったかっただと思えます。だから **ア** がたくさん使われているのです。北原白秋さんの雀に対するやさしさを感じます。

南田 「おお」という言葉にも、「ああ」や「まあ」とはちがって、雀をいづくしむ気持ちが表れています。小さな雀たちが大好きだという北原白秋さんの気持ちが伝わってきますね。

（中略）

横山 次に、【詩2】について考えてみましょう。【詩1】とちがって、「いや高く」「あえぬ」「雨なり」などのように **ウ** がたくさん使われていますね。そのせいか、【詩1】の親しみやすさとは逆に、だれをも寄せ付けられないような厳しさを感じます。

小川 季節も、【詩1】は夏だけど、【詩2】は寒さの厳しい冬。しかも、時おり強い風が吹いています。そのような景色と、横山さんの言っていた表現の持ちようがぴったり合っています。

いるように思います。

南田

表現の持ちようとして、もう一つ、【詩2】のリズムのよさが挙げられます。【エ】が主に使われているからだと思います。特に、「揺ゆられては、ちち、吹かれては、ちち、」というところが好きです。竹に枝にしがみついていたのだけれど、風が吹くたびに飛ばされるのは、また、もどろうとする雀の姿が、詩のリズムと重なって美しく感じられるからです。

野上

付け加えます。北原白秋さんは、「ちち」と鳴きながらしがみついては飛ばされる一羽の雀の姿すがたをずっと見つめています。はらはらしたり、応えんしたりしながらじっと見つめている北原白秋さんの姿に雀への愛情を感じます。【詩1】とはえがかれている景色も表現もちがうけれど、雀に対するやさしい気持ちにあふれた詩だと思います。

）（話し合いが続く）

【グループでの話し合いの様子】の【ア】・【イ】・【ウ】・【エ】の中に入る最もふさわしいものを、次の1から4の中からそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 短い言葉
- 2 昔の言葉
- 3 五音や七音の言葉
- 4 よびかけの言葉

ア

…（ ）

イ

…（ ）

ウ

…（ ）

エ

…（ ）





22

- 一 ア … ( 4 )
- イ … ( 1 )
- ウ … ( 2 )
- エ … ( 3 )

二 (横山さんは、「さわやかな朝の景色にうきうきしている気持ち」と言いましたが

三 4

四 2

五 例

詩1では、明るく元気に飛び回るすずめ、詩2では、逆境にたえ生きぬく姿、同じすずめを題材にしながら、全くちがう様子がえがかれている。北原白秋は、そのすずめたちに自分の姿を重ねているように思った。

(同意可)

- ※詩の内容や表現の仕方などについてふれており、共通点や違う点を取り上げていること。
- ※「北原白秋」「詩1」「詩2」という言葉を使っていること。
- ※八十字以上、百字以内で書いていること。